

保育現場で求められている能力とその指導（3）

—音楽的活動と実習先での体験を通じて感じたこと—

大久保 友加里・杉山 佳菜子・榊原 尉津子

要旨

本稿は、保育実習を経験した学生が音楽・運動・制作の活動を中心とした場面を振り返り、現場で必要と感じた能力や今後の課題を明らかにするために実施したアンケート結果をまとめたものである。本稿では、音楽活動を中心とした振り返りと、学生の想起のうち実習先での体験を通じて感じたことについて報告する。音楽的な活動場面においては、技術面の能力を必要と感じている学生が多く、学校等で身に付けた基礎的な力を現場での実践力へつなげていくことの大切さが示唆された。また、子どもとの触れ合いの中で、より保育者を目指す意欲が高まる一方、子ども同士のトラブルやけんかの際の対応など、机上では学ぶことの難しい場面に遭遇し、戸惑う姿も見受けられた。また、指導案や日誌の記述を通して、文章力や語彙力の不足を実感する学生が多いことが分かった。

キーワード：保育実習，振り返り，科目間連携

1. 問題および目的

第2報「保育現場で求められている能力とその指導（2）」では、学生の実習先の基礎的な情報と実習先での体験を中心に報告した。その中で、音楽を取り入れた活動は、ほとんどの園で取り入れられており、多くの園では「体育・運動遊び」及び「触れ合い遊び」が、「音楽活動」と同時に行われていることがわかった。このように、音楽が、子どもたちの活動一つ一つに関わってくるとすれば、保育者の音楽能力は、園における活動の流れを左右するといっても過言ではない。また、保育現場で必要とされる音楽能力に関して中野・河野(2012)は、メロディーに和声を付けるという方法等のように、習得することで演奏に直接役立つような学術的でない理論「生きた理論」の必要性について述べている。また、音楽に合わせて身体を動かすスキルや、ダンス（盆踊り）、手遊びのレパートリーを増やすなどの指導も合わせて必要とされていることから、科目間連携が重要であることが示唆される。保育実習を経験してきた学生との授業を再開したとき、以前には感じられなかった強い自覚や意志を感じ、大きな成長を実感するといったことは多くある。保育実習は、大森(2013)が述べているように、学生を指導する側の教員にとっても、自らを振り返る場を提供してくれる大切な機会である。柔軟に科目間連携をはかり、保育現場で必要とされる能力を効率的に学修できるよう、本稿ではさらに音楽活動に焦点を当てた視点及び、実習全般において、学生が感じたことについて報告する。

2. 方法

- (1) 調査協力者 短期大学部2年生で「保育実習Ⅱ（保育所）」を終えた67名（男子6人、女子61人）。「保育実習Ⅰ（保育所・施設）」と「幼稚園教育実習Ⅰ」の3回の実習を経験している。
- (2) 調査時期：2016年6月。
- (3) 質問項目：「実習先での体験を通して、音楽的な活動場面で自分にどのような能力が必要だと感じたか」について具体的な内容と「音楽活動の中で、特に子どもたちが喜んだ場面は、どんなときでしたか。」の質問に対し、自由記述で回答を求めた。また、「実習中に良かった・楽しかったと感じたことは、どんなことですか。」「実習中に困ったと感じたことは、どんなことですか。」の問いに関しても、具体的な内容を自由記述で回答を求めた。

3. 結果

(1) 音楽的な活動場面において必要だと感じた能力

学生の回答をKJ法によって分類したところ、ピアノの技術や身体の動かし方や器用さなどの「技術」、歌や遊びの種類などの「知識」、説明の仕方や見本の見せ方などの「伝え方」、経験不足や体力不足などの「経験・準備」に分類することができた(表1)。

また、図1で示したとおり、「技術」面の能力不足の回答が最も多く、選曲や遊び方などといったように「知識・準備」面の項目が次いで目立っている。その他、音楽活動への導入の仕方や細かな配慮といった「伝え方」に関する能力についても、少数であるが挙げた。

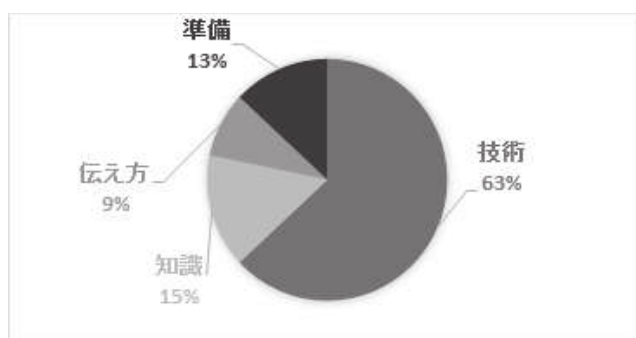


図1 音楽的な活動場面において必要だと感じた能力(分類)

表1 音楽的な活動場面において必要だと感じた能力(記述内容)

技術	ピアノ等(14名)
	子どもに合わせてピアノを弾いたり、大きい声で子どもの手本になるように歌うこと
	子どもに合わせて弾いていく
	ピアノでの弾き歌い
	ピアノを初見で弾く能力
	ピアノを弾く技術(簡易伴奏でも止まらずに弾く)

	ピアノをもう少し練習してコミュニケーションのひとつとして使う
	朝の体操を毎日していました→リズム感やピアノ
	実習に行った園ではピアノを頻繁に使っていたので、ピアノを弾けるようにすることと、子どもが歌いやすいようにゆっくりとまらずに弾く
	歌がうまくなりたいと思った
	もっとピアノを上手に弾けるようにする
	子どもたちを見ながらスムーズにピアノを弾く
	もう少しピアノをしっかりと弾けるようにしておけばよかった
	子どもの前でピアノを弾けるようになること
	歌を歌うときやリトミックをする時に、ピアノを弾いていたので、その能力は私にないと思いました。
	楽しく歌うことができるように。手遊びを使った歌をはっきり歌えばよかった
	今回、初めて子どもの前でピアノを弾きました。子どもの顔を見ながら弾くことが難しかったので、できるようになりたいと思いました。
知識	ピアノを使った短い遊び
	もっと子ども達が知っている流行の曲を聞き、勉強すること
	リズム遊びでピアノが弾けるようになる能力
	歌える歌のレパートリー
	たくさんの歌を知り、ピアノを弾く
	歌を覚える ピアノ
	NHK テレビの体操の歌を覚える
伝え方	歌を歌いながらも歌詞を子ども達がわかるように声をかけること
	盛り上げ方
	いきなり音楽に入るのではなく、手遊びなどをしてからすること
	太鼓を子どもたちにどのタイミングで叩くのかの教え方をもっと工夫したほうがよかった
準備	歌詞を覚えること（3名）
	手遊びなど人前で行うとなかなか緊張してできないので自信をもってしたいなと思いました
	もっと子どもの曲を知ってからいけばよかったなと思いました
	子どもを見ながら弾くことに慣れること
その他	保育者と一緒に楽しく行うこと
	大げさなくらいに体を動かす（堂々と）
	わからない曲でも手拍子をするなど子どもたちと楽しめばよかった
	毎日ピアノを弾いて季節の歌を歌う
	音楽CDをかけての活動が主だったため、特に何も感じませんでした。
	音楽活動全般
	音楽に合わせて楽器を鳴らす
	集中力
	部屋にピアノがなかったから特に感じなかった
	毎日ではないが、ディズニー体操をしていた。ピアノを弾いて演奏する
	夕涼み会の盆踊りの練習
	リトミックをする際、安全面を自分が考えている以上に考え、配慮すること
	ピアノを弾いていないのでわからない

（２）音楽的な活動の中で、特に子どもたちが喜んだ場面

具体的記述内容は、表２のとおりである。第２報でも述べたことではあるが、単に保育者がピアノを弾き子どもたちが歌うといった活動だけでなく、音楽に合わせて踊ったり跳んだりというように、身体活動を伴った音楽活動の際に喜んでいる子どもたちの姿が把握できる。

表2 音楽的な活動の中で、特に子どもたちが喜んだ場面

楽器演奏	ピアノカで一通り歌を弾けたとき
	楽器に触れたとき
歌唱	クラスみんなで歌を歌う、長い歌を歌っていたとき(3名)
	「かえるの合唱」は、普通のかえる、大きいかえる、小さいかえるの順に歌うことで強弱を楽しんでいた。
	歌を歌う活動だけでした。ほめられた時は喜んでいた。
身体活動	ふりつけがある歌
	ピアノを弾きながら先生が言った動物になりきる場面
	「かえるの合唱」でカエルのまねをして跳びながら歌う
	1歳児クラスの時に、子ども達が楽しそうにピアノに合わせて歩いたり走ったりする姿を目にした
	音が変わったら、歩いたり走ったり体を動かす場面
	皆で体操(アンパンマン体操)をした時とても喜んでいて
	曲に合わせて踊ったりする場面(「かえるの合唱」→カエルになりながら歌う)
	カエルになって歌いながら跳ねたりした場面
	カエルになるところや、最後の決めのポーズが決まった時
	音楽に合わせてながら体を動かす
	体を動かしながら歌うこと
	出席を取る時に子ども達が返事を「はい」という時にタンバリンを3回たたいて「はい」と言っていたときが喜んでいて場面
	「しゅりけんにんじゃ」という曲をかけたときに子ども達がとても喜んで保育者と踊っていました
	さくらんぼ体操の時に、音楽に合わせて走ったりとまったりの動きの時に笑顔が多く見られた。
	リトミックで上手に動くことができ先生にほめられた時
	手をつないで中心に集まったり離れたり
	掛け声や決めポーズをする場面で笑顔で喜んでいました
	保育士の方々と一緒に楽しく踊る
	子どもの好きなダンスの時は一番楽しそうでした
	踊り「ぺんぎん体操」
	季節の歌で「かえるの合唱」や「手をたたきましょう」等は楽しげにジャンプしたり足踏みをしていた
	布をつかってゆらしていた時
	自分たちで表情や表現をピアノの音に合わせて動かしている時
	「かえるの合唱」でかえるのようにピョンピョン跳んでいた時
	ジャンプするとき。ぬり壁のマネをしている時
	体操しかしていない
その他	盆踊りの練習をしていた
	よいしょっと声を出す時に大きな声で笑っていた
	ほめられた時(2名)
	「かごめかごめ」で誰がいるか名前をあてるところで後ろに当たった人や真ん中に選ばれたときには喜んでいて
	保育者と触れ合う場面
	「かえるの合唱」、ドラえもん、アンパンマン、にんにんじゃー
	部分実習でした遊び

(3) 実習中に良かった・楽しかったと感じたこと

「実習中に良かった・楽しかったと感じたことは、どんなことですか。」の質問に対しては、表3に示したとおり、子どもたちとの触れ合いを通して得られた充実感や癒し、また心と心のつながりによって喜びを感じたといった回答が圧倒的に多かった。また、学校で学んだ知識や技術を現場で活かすことができたという経験も、保育者を目指す意欲の向上に重要な要素となっている。

表3 実習中に良かった・楽しかったと感じたこと

子どもとの関わり	「〇〇（名前）先生」と呼ばれたとき。遊んでいるとき。
	4歳児のクラスを担当した時に子どもたちと仲良くなれたことです
	4・5歳児はすごく走ることが速くて、鬼ごっことかすごく楽しくできた。子どもに癒された時保育士を目指してよかったと思った
	5歳のクラスで最後にみんなバイバイしてくれて泣いてくれてたくさん関わることは大切だと感じた
	一緒に積み木などで遊んだことが楽しかった
	一緒にリズム体操をして楽しかった
	内気な子どもの笑顔を見たとき
	笑顔で関わることによって、子ども達からいつも寄ってきてくれた
	子どもがかわいかったからよかった。上手くいかなくても元気になった
	主に1、2歳児を実習させていただいた。子どもたちと笑顔で関わることで安心して近寄ってくれたこと
	主に担当していたクラスの子以外の子どもたちも、私を見かけたら話しかけてくれたこと
	折り紙を折っていて子どもに教えてほしいと言われ、説明しながら折っていたら、自分で折れるようになり、笑顔で「折れたよ」と伝えてくれたこと
	戸外で遊んでいるとき、子ども達から「先生遊ぼう!」と駆け寄ってきてくれたこと
	子どもが近寄って来てくれたり、手紙をもらったこと
	遅番のとき担当していないクラスの子ども達が「先生一緒に遊ぼう」やひざに座ってくる子どもたちがいて嬉しかった。子どもたちと遊んだこと。
	子どもが楽しいことがあったときに走って寄ってきてくれた
	子どもがひっついてきてかわいらしかった
	子ども達と関わりをもち、一緒にすごし準備などしようねなど声掛けすること
	子ども達から鬼ごっこをしようなど遊びに誘われた
	子ども達が最終日にさみしいと言ってくれたこと
	子ども達が自分のところに来てくれたとき(2名)
	子ども達が心を開いて話しかけてくれた。人見知りだった子が実習最終日には話しかけてきてくれた。
	子ども達が私が教えた折り紙を覚えてくれて、折ってくれたり、楽しかったと言ってくれたこと
	子ども達が「一緒に遊ぼう」と声をかけてくれたり、子ども達が「先生のこと好き」といってくれてよかった
	子どもたちと遊んだり、前でまとめたこと（手遊びなどして）
	子どもたちと一緒に遊んでいた時(5名)
	子どもたちとたくさん話せてなぞなぞしたり楽しかったです
	子どもたちと楽しく、子どもの目線に立ち遊べたこと
	子どもたちと触れあう時間 保育者と子どもとのフレンドリーな掛け合い
	子どもたちと触れ合っているときに楽しかったし、嬉しかったです。
	子どもたちにおぼえてもらったこと

	子どもたちの方から関わってきてくれました
	子どもと遊ぶこと（ビーブロックで遊ぶ（ビーブロックを物にとえる）
	子どもと一緒に遊んだり、朝に教室に入ると抱きついてくれたこと
	この授業で身につけた触れ合い遊びをしてあげたら「もう1回やって！」と喜んでもらった時
	最終日に子ども達が泣いて「また来てね」「さみしい」と言ってくれたこと
	様々な年齢のクラスに入れ、行事への準備・進め方も学べた。子どもとたくさん遊び、関わる事ができた
	成長がみられて楽しかった
	前回の実習で関わった子ども達が成長していて話せるようになっていた
	たくさん子どもと関わったことや保育者の仕事を少しでも知れた。最後に歌をプレゼントしてくれたこと
	担当のクラスではない子も名前を覚えて呼んでくれたこと
	乳児ばかりのクラスに入らせてもらったけど乳児さんも話しかけてくれたこと
	日々のかかわりを通して子ども達が徐々にところを開いてくれたこと
	フラフープで雷が鳴ったら皆でお腹を隠すために2人同士でぎゅっとする時に子ども達が皆駆け寄ってきてくれたことや「お昼ごはんはここで食べて」って毎日言われたこと
	触れ合い遊びでスキンシップをとれたこと
	プレゼントを嬉しそうにお母さんに見せてくれていた時
	前年齢（0以外）を見させていただいたので、この時期の子どもの特徴や介助などをみる事ができ、多くの子どもと関わる事ができた
	ままごとで子どもの姿を認め関わったことがよかったです
	夕涼み会の製作、盆踊りを一緒にするのが楽しかった
	リトミックに参加したんですが、その時の子どもたちの楽しそうな顔が見れて私も楽しかったです。
準備の成果	「エビカニクス」という流行の曲で体操をして、保育者も子どもも私も楽しめた。部分実習がうまくいった
	4歳の部分実習で子ども達がものすごく楽しんでいたこと。
	責任実習での新聞紙遊びが盛り上がったこと
	部分実習で紙皿でフリスビーを作ってそれで遊ぶ活動をしてとてもよろこんでくれたこと
	部分実習で景品を作って行ってそれをとても喜んでくれたこと
	部分実習で子どもがすぐに飽きてしまいそうで心配していたが、とても楽しんでくれてよかった
	部分実習でもう一回したいと何度も言ってもらえた。
	部分実習をした時に、子どもが笑顔で活動に取り組み、終わった後に、楽しかったと声をかけてくれたこと。
その他	輪切り鬼の説明が上手にいった
	保育者の共通理解の大切さを学んだ
	園長先生もよかった。先生たちみんな仲良く園の雰囲気がよかった
	すべてが楽しかったです

（４）実習中に困ったと感じたこと

「実習中に困ったと感じたことは、どんなことですか。」の問いに対して、最も多くの学生が挙げた項目は、表4に示したとおり、子ども同士のトラブルやけんかの際の対応についてであった。注意や援助の仕方といった、適切な声掛けの仕方に迷った学生も多いことがわかった。また、午睡や散歩、排泄など生活にかかわる場面も挙げられていた。これらは、座学で身に付けられる知識のみでは現場での対応は難しく、今後の検討が必要である。さらに、日誌や

指導案の書き方に悩んだ学生も多かったが、このことは事前指導により十分対応可能な項目であると考えられる。

表4 実習中に困ったと感じたこと

けんかやトラブル	2歳児で寝起きの悪い子の対応。1歳児でなぐりあいのケンカが始まった時
	2歳の仲立ち。まだ上手に話せず何でケンカをしているのかわからなかった
	おもちゃの取り合い
	遊びのルール説明がうまくできなかった。箸の使い方。ケンカをした時の対処の仕方。私を寝かそうとして、腕を首周りに巻きつけてきて、何度か首を絞められた
	おもちゃの取り合い、手が出るけんか
	子ども達が物を取り合っているときに、まだ話が理解できないこともあるのでその対応と泣いてしまった時の対応に困りました
	ケンカが多くて自分のかかわり方は本当に合っていたのか、ケンカが多すぎてわからなかった
	ケンカが多すぎて仲裁に入ること
	ケンカにうまく対応できなかったこと
	子どもがけんかした時(3名)
	おもちゃの取り合いにどうやって声をかけたらいいか困った
	子どもたちのけんかなどの仲裁声掛け
	子供同士のケンカや泣いている子の話の聞き方
	子ども同士のトラブル
	子どものおもちゃの取り合いの対応
	自分が見ていない所で起こったトラブル
	仲裁に入ることがすごく難しくて困った
	友達同士のトラブル
	物の取り合い
	物の取り合いやケンカをした時どのように止めたらいいいか困りました。
関わり方	子どもが泣いてしまった時の対応の仕方
	ダメなことを注意しても言うことを聞いてくれなかったことです。注意の仕方が難しかったです。
	子どもとの関わり
	責任実習の際、泣いてしまう子や走り回ってしまう子にどのように声掛けをしたらよかったのかということ
	できないと思い込んでしまい、何もなくなる子への対応
	いつも、おんぶしてほしいと言う子どもがいて、今は保育者の話を聞くときだけ子どもがどんな気持ちなのかを探りつつ、子どもの気持ちを受け止めることの難しさ
	子どもを上手に座らせる方法
	乳児がどんな理由で泣いているのかわからなかった時
	乳児になると常に子どもたちの行動を把握しなければいけないので大変でした
	初めての0歳で初めはかかわり方などがわからなかった
	一人ひとりに応じた援助
	一人ひとりの発達の違いが大きくあったことで対応も異なること
	異年齢(3～6)のクラスだったので、一人ひとりの言葉掛けが難しかったです
	どこまで支援をすればよいか 怒り方
	肯定的な声掛けをすることが難しかった
	気持ちの切り替えが苦手で、パニックになったりすると頭を打ちつけようとする子がいたため、初めはどう接すればよいか困りました。
	各年齢にあった手遊びについてどうしようか迷いました
生活面	私が次の活動にむけて「〇〇するよ」と子どもたちに声をかけると「嫌だ」と言い、ぜんぜん動いてくれなかったこと(ずっと笑ってる様子)
	自分ではなく、別の先生にトントンしてほしい、などと言われた時
	おむつ交換などが難しくて大変でした
	おむつ交換の援助がわからなかった
	午睡の時にトントンをしようとしたら「先生は嫌」と拒否されたこと
	うんちをしていた時の対応が困った

	散歩中にどのような言葉かけをすれば子どもが喜ぶか
	子どもが怪我をしてしまったときの対応の仕方
日誌の書き方や指導案	部分実習案を書くことが困った
	部分実習が計画通りうまくいかなかった
	部分実習に何をするか迷った
	指導案の書き方がぜんぜん違った
	日誌を提出したのですが、修正されることがほとんどなく、返ってきたので、本当にこんな日誌でいいのかなと思いました。
	日誌の書き方(2名)
	日誌を返してくださるのが遅かった。その割りに「具体的に」と言われた
その他	保育者から何も説明がなく、1日の流れを把握することではいっばいいいだったこと
	保育参観があり、保護者との関わり
	トイレに行くタイミング
	導入の仕方
	園のルールや決まりがあまりわからない
	子どもの名前、人数をもっと早く把握しておくことができなかった
	パートの先生が実習生に無関心すぎて質問しにくかった
	大学で急な課題を出され、実習初日に入るクラスを変更するしかなく、迷惑をかけた。指導案の活動内容をどうするか悩んだ(5歳児1時間)。先生方とのコミュニケーションのとり方。質問するタイミングが難しい。
	風邪
	あまりない

4. まとめ

音楽的な活動場で必要と感じた能力に関して、ピアノ演奏や歌唱、弾き歌いなどの「技術」面の能力不足を挙げる学生が圧倒的に多い一方で、実際の保育現場では、音楽を用いて身体を動かす、というように応用力が求められている。場に応じて即興的に対応できる能力や「生きた理論」、また音楽の枠を超え科目間を連携した遊びのレパートリーや実践力などが、非常に大切であると考えられる。

困ったことで最も多かったけんかへの対応については、2つの視点から学生の学修指導の対策を考えることができるだろう。一つは、幼児における社会性の発達に関する視点である。2～3歳頃では、社会性の発達がまだ未熟で、行動抑制力も弱い。そのためにけんかもおこりやすく、けんかがおこりそうな時は、早くに大人が間に入って、けんかを収めることが必要になってくる。年長になると、人の心や考えを推測する力、共感する力も発達してくるが、発達障害のある幼児の場合は、このような共感能力の発達が遅れる場合がある。従って、幼児の社会性の発達、特に共感能力の発達について学ぶことは大切で、発達が未熟な場合の支援・指導のあり方も学ぶ必要がある。

もう一つの視点は、子どもたちとの信頼関係や愛着関係の形成という視点である。子どもがけんかをした時、その子どもの不安定な情緒をなだめるのは、保育者の重要な役割であるが、子どもとの信頼関係や愛着関係が形成されていると、それは比較的容易となる。短期間の実習では、実習生が子どもとの信頼関係や愛着関係を形成するのは簡単ではないが、保育者を目指す学生は、特にそのような関係構築や心理的支援の重要性を学ぶ必要がある。

また、保育者を目指して入学してくる学生は、子どもとの関わりの中で最も充実感や喜びを

感じ、将来への希望を見出している。しかし、現場では文章力や語彙力といった基礎力が当然必要とされ、苦手と感じる学生が多いということが分かった。現場でしか学べないことと、机上学習で事前に学べることの住み分けをはっきりさせ、実習及び事前事後指導の効率をはかっていくことが重要である。

参考文献

- 仲森みどり、大谷正人(2016)：発達障害幼児の保護者への理解と支援—A市療育施設の保護者を対象としたアンケート調査より—、『三重大学教育学部研究紀要』67（人文科学），87-98.
- 中野研也・河野久寿(2012)：保育現場で必要とされる音楽能力と、幼児音楽教育との関連，『仁愛女子短期大学研究紀要』44，71-78.
- 大森由美子(2013)：幼児の音楽表現活動と保育実習に関する一考察，『東海学院大学短期大学部紀要』39，65-70.

筆頭執筆者の所属と連絡先

大久保 友加里 所属：鈴鹿大学短期大学部 Email：ohkuboy@suzuka-jc.ac.jp

The Ability and the Guidance Desired at a Childcare Fields(3)

Summary of the musical activities and the impressions
of the total childcare training

Yukari Okubo, Kanako Sugiyama and Itsuko Sakakibara

Summary

This report is a summary of students' experiences with music, sports and crafting in the childcare training program. The students identified future problems. This report contains reflections on musical activities and students' impressions based on their experiences. Concerning musical activities, most students felt the necessity of improving musical skills and it was suggested that raising musical skills to practical levels was important. They raised their wills to become nurseries, and on the other hand they were puzzled by the situation which could not be learned at the desk, such as troubles among the children and mediating to their quarrels. In addition, most students felt they lacked of the ability to write guidance plans and diaries.

Key Words: Childcare training, Recall, Inter-Subject Cooperation